

# 胆道がんとは

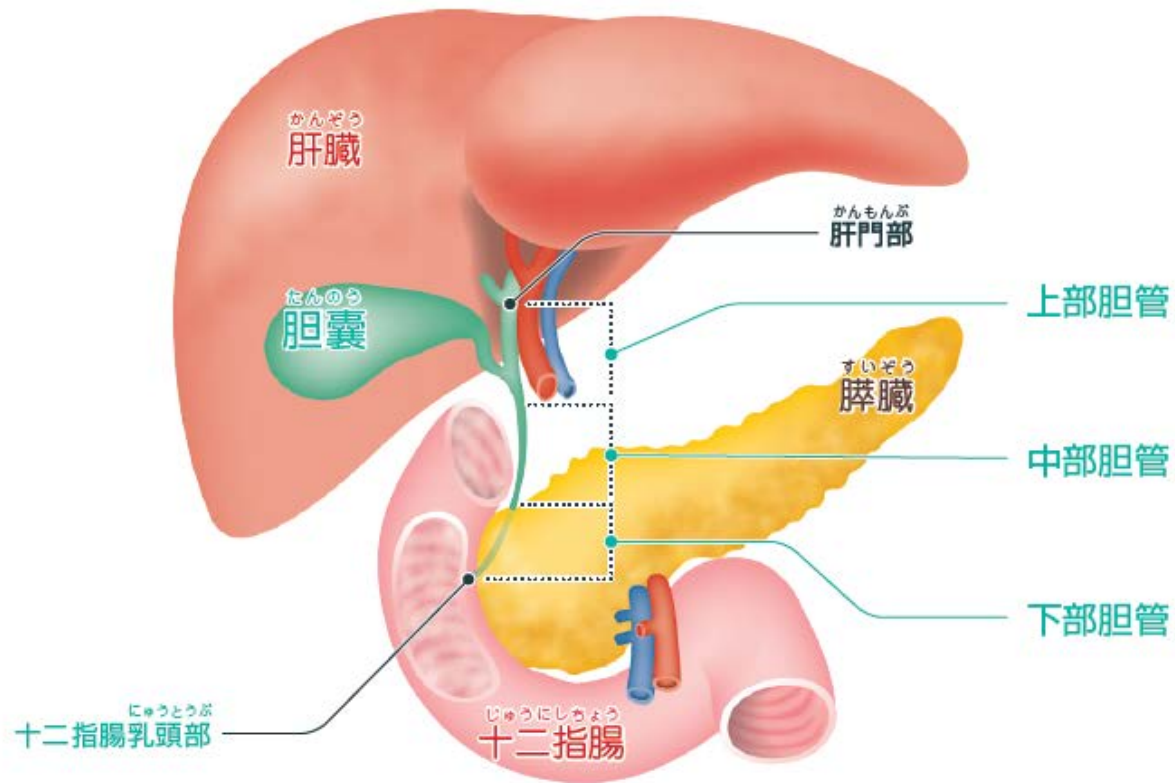
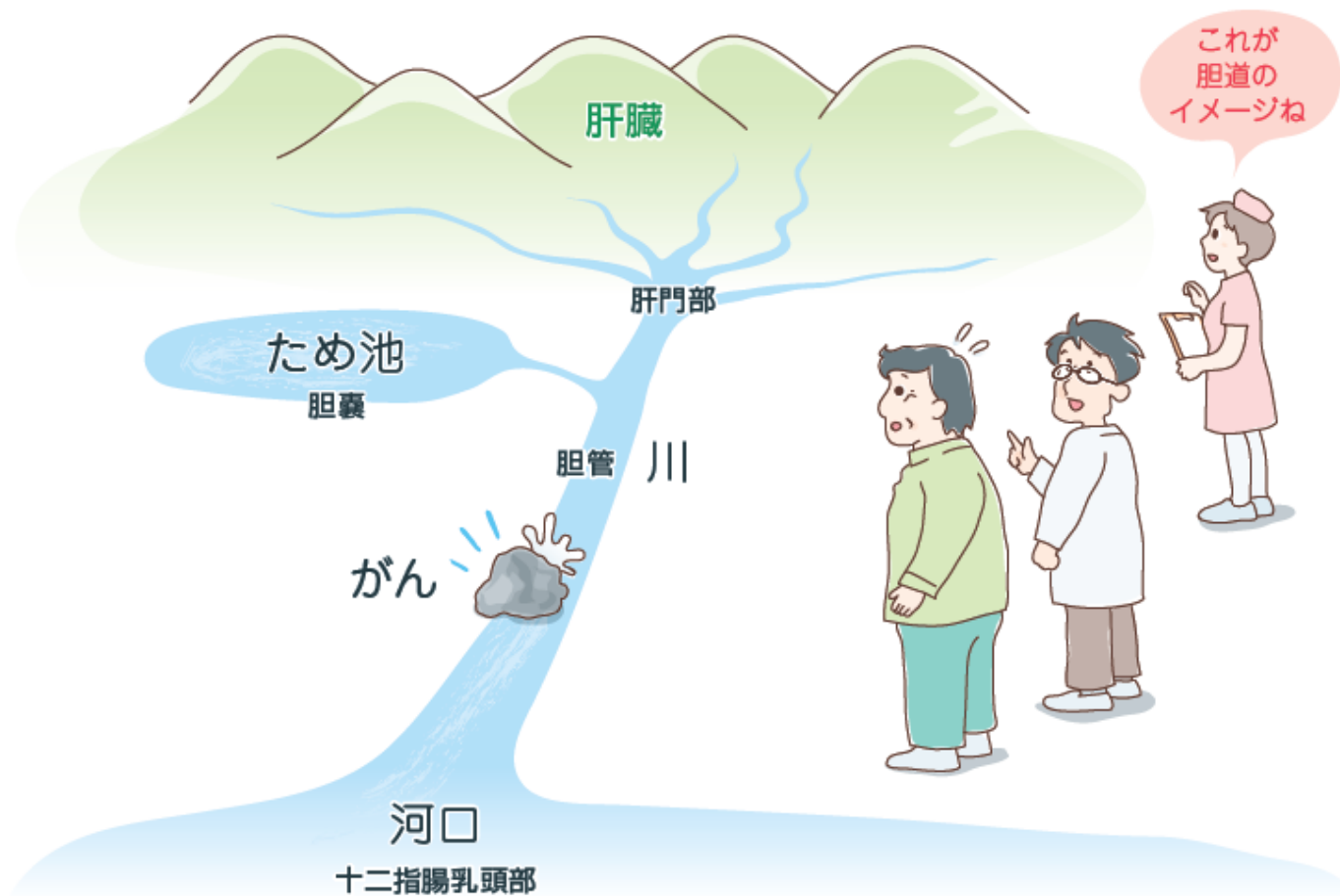


図1.1 胆道の位置と各部位の名前

# 胆道がんとは



# 胆道がんは日本人に多い

- 年間罹患者： 2.0 万人
- 年間死亡者数： 1.8 万人
- 日本人のがん死亡数の第6位
  - －肺、胃、大腸、肝、膵、に次ぐ死亡数

# 胆道がんの原因は？

- 残念ながら原因は十分わかっていません。
  - 胆石症、胆管炎、先天性膵胆管合流異常症などの胆道疾患や、潰かいよう瘍性大腸炎、クローン病などの炎症性腸疾患は、胆道がんのリスクになるといわれています。
  - 女性であること、肥満、高カロリー摂取、野菜・果物の低摂取、出産回数が多いこと、などがリスクの候補と考えられています。
- 2012年、大阪市にあるオフセット校正印刷会社の元従業員が、高頻度で胆管がんを発症していた事実が明らかになりました。
  - その後の調査で、インクの洗浄剤の一つが胆道がんの原因になったのではないかと疑われています。

# 胆道がんによくみられる症状

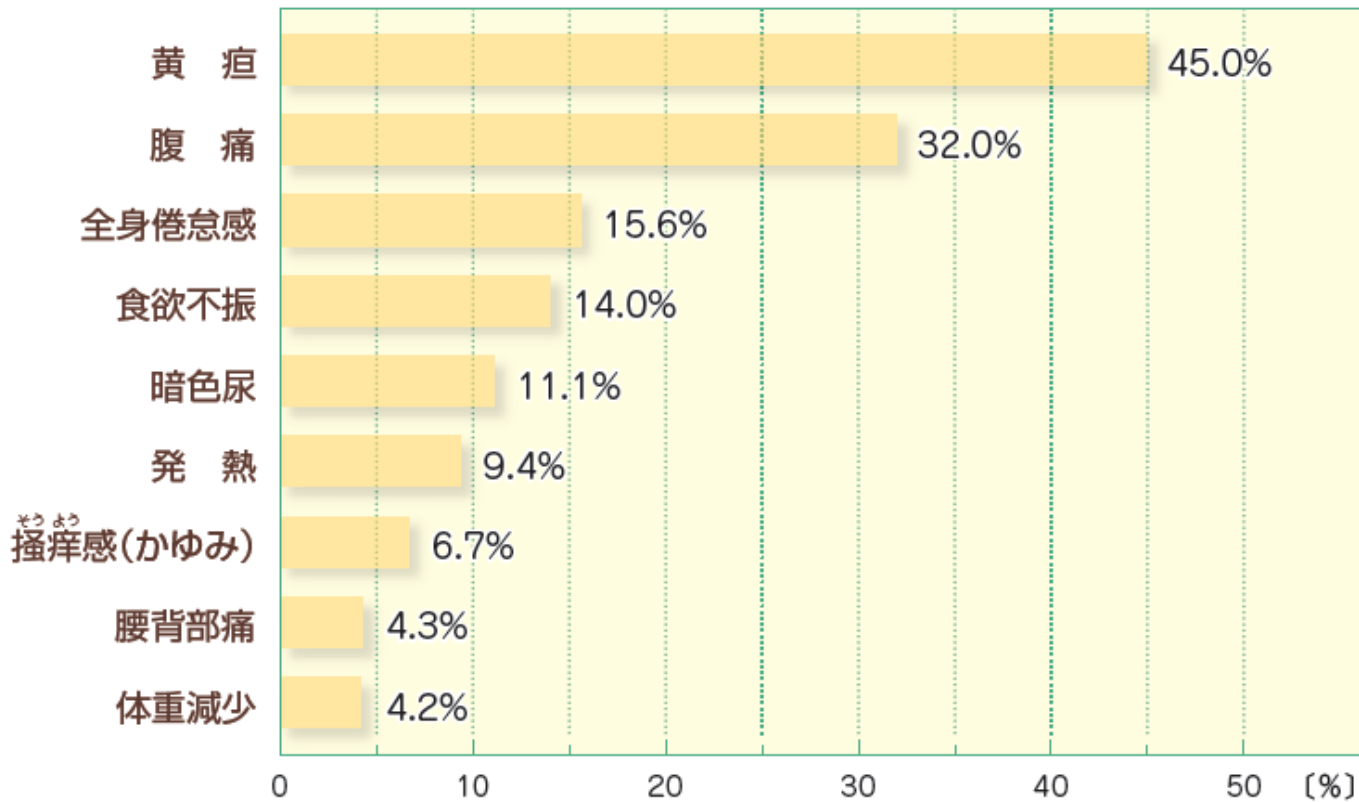


図3.1 胆道がんの初発症状

〔全国胆道癌登録調査報告、1998～2002年度より作成〕

# 胆道がんの治療

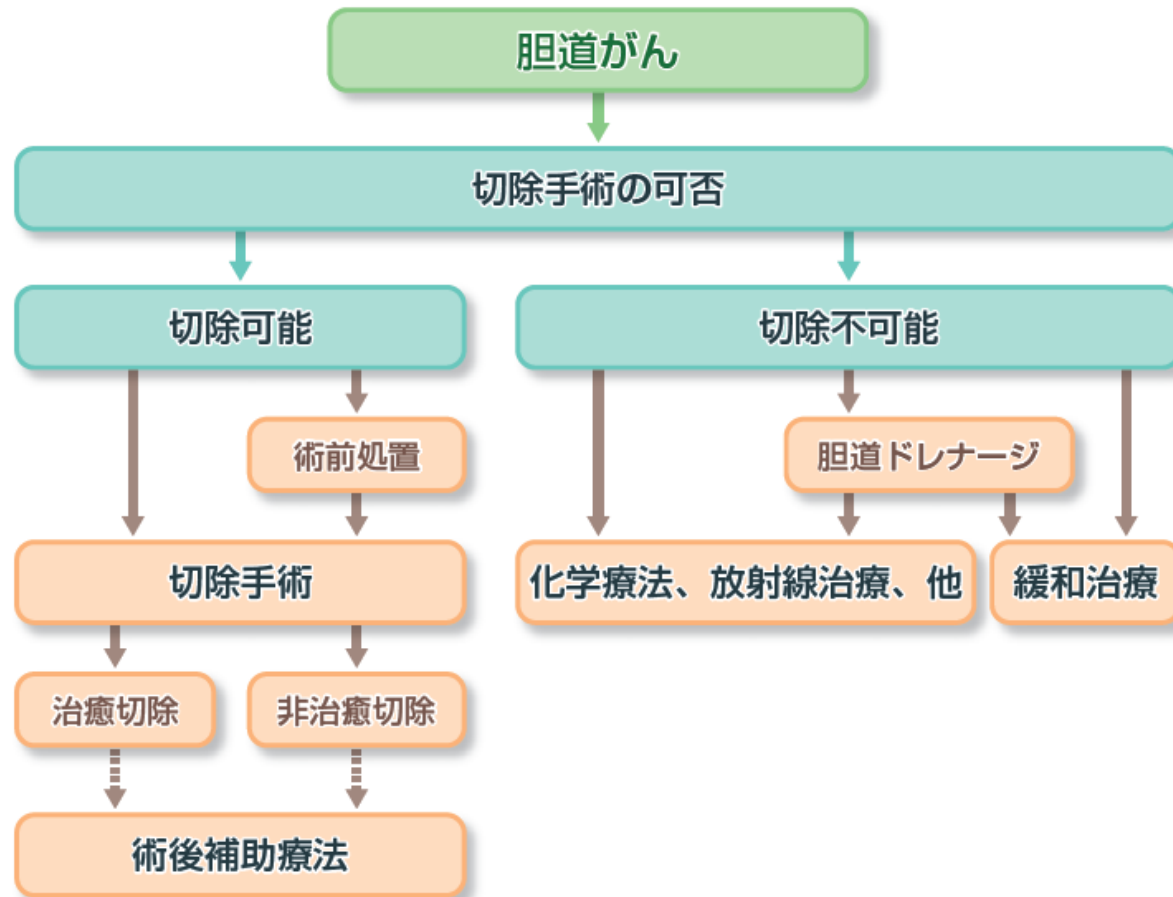


図5.1 胆道がんの治療の流れ

〔エビデンスに基づいた胆道癌診療ガイドライン、2007より引用改変〕

# 胆道がんの治療



図5.1 胆道がんの治療の流れ

〔エビデンスに基づいた胆道癌診療ガイドライン、2007より引用改変〕

# 手術

- ○ 治癒が期待できる唯一の治療法
- × からだへの負担が大きい治療

## －手術の条件

- ① 手術に耐えうる体力がある
- ② がんをすべて切除できる



# 胆道がんの治療



図5.1 胆道がんの治療の流れ

〔エビデンスに基づいた胆道癌診療ガイドライン、2007より引用改変〕

# 化学療法（抗がん剤治療）

- ○ がんが広がっていても適応可能
- × 根治できない（治らない）

## －化学療法の目的

- がんの増殖を抑えて、できるだけ元気で長生きする。

# 胆道がんの治療



図5.1 胆道がんの治療の流れ

〔エビデンスに基づいた胆道癌診療ガイドライン、2007より引用改変〕

# 放射線治療

- ○ からだへの負担が比較的少ない
- × 狭い範囲しか治療できない。延命効果が証明されていない。

## － 放射線治療の目的

- がんを少しでも小さくして、症状を抑える(痛み、黄疸など)。

# 化学療法の進歩

暗黒時代(有効な薬がない!)

2006年 ゲムシタビン承認



2008年 S-1承認



2011年 GC療法登場

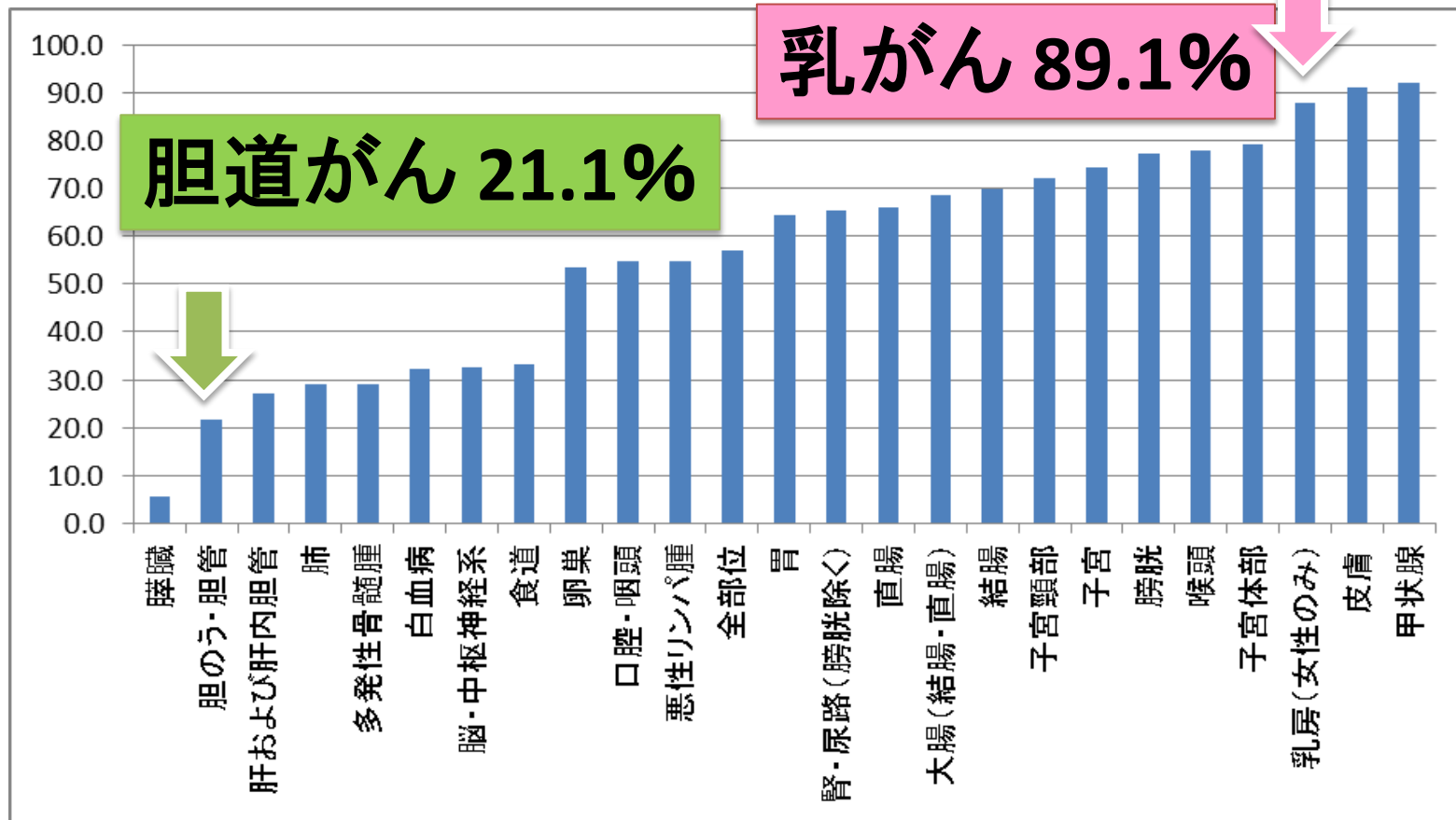


GC:  
ゲムシタビン  
+シスプラチン

抗がん剤で延命可能な時代

# 課題 依然として予後不良

## 5年相対生存率

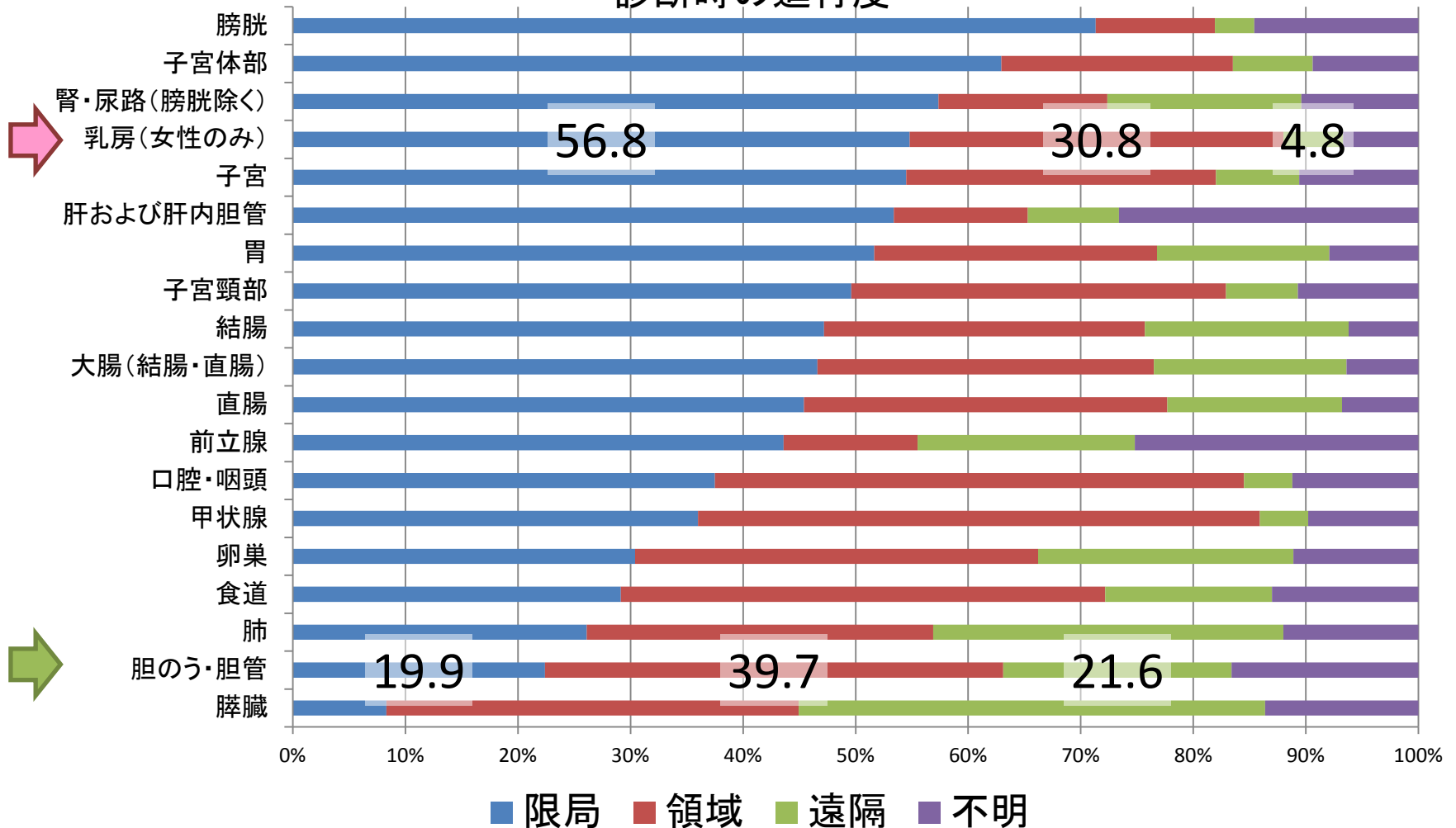


(2003-2005年診断例の男女計)

全国がん罹患モニタリング集計 2003-2005年生存率報告(独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター, 2013)

# 予後不良の理由(1) 早期発見が難しい

診断時の進行度



# 予後不良の理由(2) 有効な治療法が少ない

乳がんに適応の抗癌剤

約30剤

胆道がんに適応の抗癌剤

6剤